

こんにちは!
社協です!!

 ふれあいネットワーク

2014

2月

No.104



平成25年度

特集

P2•3

学んだ成果を

社協役職員業務研究会

だ成果を
活動に活かす！



ひ孫と
いつしょ

いわのべ
千種町 岩野辺

シリーズ103

ふなびき みやぎ
仙北 美加

船曳 美柳さん(81歳) はるみやさん

○小春ちゃん(2歳6ヶ月)

あすか
明日花

明日化ちゃん(1歳4ヶ月)

陽さん・美

「ひ孫といっしょ」のコーナーに登場していただけるモデルさんを募集いたします。宍粟市内にお住まいで同居されていることが条件です。宍粟市社協本部・支部へお申し込みください。

学んだ成果を活動に活かす！

平成25年度

社協役職員業務研究会

宍粟市社協では、理事と職員（管理職員、地域福祉担当者等）が4つの班に分かれ、第2次地域福祉推進計画（つながりふくしプラン）であげている重点事業を推進するため、調査や研修を行っています。

今月号では、理事と職員が一緒に取り組んでいる今年度の「役職員業務研究会」について報告します。

研究方法は班ごとに検討

今年度は、4つの班すべてが昨年度と同じテーマで研究を進めました。

その方法は、先進的な取り組みを行う社協への視察研修を行ない、高齢者の見守り活動を行うボランティアグループへの聞き取り調査や配食サービス利用者へのアンケートの実施など、それぞれの班が必要と思うこと

を考え、研修内容がさらに深まるよう取り組みました。

※班ごとのテーマと研修の様子は左のページで紹介しています。

この取り組みは、バス路線のない地域で買い物に不自由を感じておられる高齢者を対象に、社協のマイクロバスなどで市内の大型店舗等への買い物送迎を北部地域で試行的に運行しました。



新たに作成した「お出かけ号」のマーク。マイクロバスにつけるマグネットシートなどに使っています

今回の研修では、山崎町小茅野と波賀町北部地域で懇談会を行いました。

この取り組みは、バス路線のない地域で買い物に不自由を感じておられる高齢者を対象に、社協のマイクロバスなどで市内の大型店舗等への買い物送迎を北部地域で試行的に運行しました。

「買い物送迎バス
お出かけ号」を試行運行

この取り組みは、バス路線のない地域で買い物に不自由を感じておられる高齢者を対象に、社協のマイクロバスなどで市内の大型店舗等への買い物送迎を北部地域で試行的に運行しました。

当日は8名の方に利用いただき、食料品だけでなく薬や洗剤などの日用品、お正月に準備するものを買うことができたと喜んでいただきました。

今回の試行運行により、来年度から社協が行う新たな取り組みとして「買い物支援」を具体化させるヒントを得ることができました。なお、このお出かけ号の財源には、「歳末たすけあい募金」の配分金を活用させていただいている

研究の成果を発表会で

研究の成果は、2月1日（土）宍粟防災センターで行つた発表会で報告しました。この発表会には本会の理事や評議員、支部地域福祉推進委員、介護事業職員等70名の参加がありました。参加者からは、「これから地域で取り組まなければならぬ課題がよくわかった」「宍粟に必要な福祉的な取り組みをみなで考えていく」などの意見をいただき、参加者全員で内容を共有することができました。社協では、来年度もこの役職員による業務研究会を継続し、宍粟市の地域福祉推進のため全力をあげます。

第1班 成年後見と権利擁護活動の推進について

平成26年度から「成年後見センター」を立ち上げる三田市社協で研修を行ったほか、宍粟市地域包括支援センター担当者と成年後見支援について意見交換を行いました。(写真は三田市社協での研修の様子 H25.12.11 三田市総合福祉保健センター)



平成25年度
役職員
業務研究会

第3班 限界集落化していく地域での福祉活動の推進について

山崎町小茅野と波賀町北部地域での懇話会を開催し、日頃の生活でのお困りごとをお聞きしたり、神河町社協で「買い物送迎サービス」について研修を行いました。(写真は波賀町北部地域での懇話会の様子 H25.11.14 鹿伏公民館)



第2班 毎日型配食サービスの実施について

配食サービスの利用者やケアマネジャー等へのアンケート調査を行ったほか、市内の福祉施設や弁当業者などへ「毎日型配食サービスについて」聞き取り調査を行いました。(写真はアンケート結果をまとめる2班のメンバー H26.1.23 千種保健福祉センター)



第4班 ご近所ボランティア活動の推進について

山崎町伊沢町、大歳町で活動する「高齢者見まもり隊ひだまり」に聞き取り調査を行い、宍粟でご近所ボランティア活動を取り組むことについて検討しました。(写真は高齢者見まもり隊ひだまりの代表と話をする4班のメンバー H26.1.8 宍粟防災センター)



○当日の発表会の資料が必要な方は、社協へご連絡ください。
お渡しします。

やまさき

身近なバリアフリーを探そう!

山崎小学校4年生の「福祉学習」

1月21日（火）、山崎小学校の4年生77名が、山崎文化会館や穴粟防災センター、神姫バス山崎案内所を訪問し、バリアフリーの設備を見学しました。

同校では、この日に向けて点字やユニバーサルデザインについて事前学習をするなど準備をしてきました。

防災センター見学時には、自分たちでバリアフリーを探してみる時間を持ちました。

「すごい、点字の電話帳を見つけた!」「ここにも手すりがあったよ」など、お互いに気づいたことを一生懸命メモする子どもたち。



初めて見る点字の防災マニュアルや電話帳などに驚く子どもたち(穴粟防災センター)

後日、学校の授業で振り返りの教材として使われます。

こうした福祉学習を通して、自分たちの地域を知り、誰もが安心して暮らせる「みんなにやさしいまち」について考える機会になればと思います。もうすぐ完成する新校舎には、どんな工夫がされているのか、見つけてほしいです。

(山崎支部 森井裕矢)

いちらのみや

雪の中“あったか喫茶”

本谷ふれあい喫茶「美心」

「真っ白な雪化粧になつて」…

1月19日（日）

昨晩から降り積もつた雪が本谷公民館の辺り一面を包んでいました。

本谷ふれあい喫茶は、「美心」の愛称で親しまれ10年が経ちました。

喫茶の運営は、福祉委員が中心です。毎月第3日曜日を定例に、隣保の協力を得ながら進めています。

この日も、足元の悪い中で常連の方をはじめ25人が公民館に足を運びました。集会室に入ると、数種類のパンや果物、ゆで卵、ゼリーなどがテーブルに並んでいます。

「何を食べようかな?」「美味しいぞやわ」…食べ放題で気持ちが高ぶります。

「常連さんだけでなく、もっと大勢の人々に来てほしいですね」と代表福祉委員の日城弘幸（52）さん。

寒い雪の中でしたが、みなさんの笑顔と楽しいおしゃべりで、心も体も「あったか喫茶」となりました。

(本部・一宮支部 波多野好則)



「美心」のカップがみなさんをお出迎え(本谷公民館)

や・い・は・ち トピックス

は
が



「こうやって打つんやで」
遊んだ後のくすだま鉄砲はお土産に

今ではとても珍しい手作りおもちゃに戸どもたちは興味津々。悪戦苦闘しながらも、最後には賀支部老人クラブの取り組みです。

「お手玉は苦手だったけど50回できるようになってうれしかった」「ぶちゴマを回すのが難しかったけど、練習したらできるようになった」などの感想が聞かれました。

「元気いっぱいの子どもたちに、今日は私も楽しませてもらつたわ」と講師の菟場智恵子さん。

簡単そうに見えて実際はやつてみると難しい昔の遊び、私も教えてもらいたいと思いました。コツをつかんで上手にできたら格好いいですね。

(波賀支部 平有利菜)

「私たちも楽しませてもらったわ」

むかし遊び講師が活躍!

1月27日（月）、
波賀小学校で、5人のむかし遊び講師が、1・2年生の児童49人にお手玉・くすだま鉄砲・ぶちゴマを教えました。

「むかし遊び講師」とは、町内で要請のあつた小学校や幼稚園に訪問し、昔の遊びを指導する波賀支部老人クラブの取り組みです。



「このお手玉の中には小豆が入つとるんやで」

千種町岩野辺の八田ユキヨさん宅で、冬の間ご近所の仲良しさんが集まって手芸に取り組まれているとお聞きし訪ねてみました。

5年前、八田さんと堀田春子さんが冬に外仕事ができない間、「手先を使うたらボケ防止になるときいたで、何かしょいや」と始められたそうです。

1月17日（金）、この

日は久しぶりによく晴れ、ぽかぽかの部屋に集まつたのは5人。

「日になんばせなあかんいうんやないし」「ようけ作ってもすぐ人にやつて無いようになる」とみなさん。

八田さんが不在の日以外は、毎朝ここに集まり、お昼になつたら家にご飯を食べに帰り、またやつてきます。家が遠く、お弁当持参の方もあります。



おしゃべりをしながら編み物をするみなさん
(八田さん:写真中央、堀田さん:左端)

気の合う仲間が集まって手芸をするにはこの居場所もしばしお休みとなります。みなさんのお近くにもこんな居場所があればいいですね。

(千種支部 小原志のぶ)



2枚仕立ての座布団
「あったかいで」

冬の居場所はここ

ひだまりで手芸とおしゃべり

ち
く
が

古切手の預託ありがとうございます



1年間でこれだけの古切手が集まりました

1月24日(金) 千種保健福祉センター

みなさんからお寄せいただいた使用済み切手・使用済みプリペイドカード・ベルマーク等がたくさん集まりました。千種支部では、1年分をまとめて誕生日ありがとうございます運動本部へ送りました。

使用済み切手等は、古切手コレクションやしおり等に生まれ変わり、知的障がい者の支援などに活用されます。引き続き使用済み切手等を集めて、社協に届けて下さい。よろしくお願ひします。(千種支部 小原志のぶ)

『楽しみ』のあるセカンドライフを!

セカンドライフ応援セミナー終了



講師 松尾やよい先生の提案で、セカンドライフの楽しみを話しました

1月9日(木) 宍粟防災センター

退職世代の方々を対象に開催したセカンドライフ応援セミナー(全5回)が終了しました。

この日は、市内で活動している「病院ボランティアめいちゃん」、昨年度同セミナー受講生で結成した「ふるべりい会」との交流会を行い、受講生を含め全14名で意見交換を行いました。

退職後、ボランティア活動を始めた先輩方から、活動を始めたきっかけ、日々の活動の様子や活動を通じた出会い等の話で盛り上がりました。

どちらのグループにも共通していたのが活動に「楽しみ」があること。「いろんなことを始めたいけど、きっかけがなかった。これからいろんな活動を楽しんでやってみたい」と受講生。

この講座をきっかけに、楽しく充実したセカンドライフになるように今後のみなさんの活動が楽しみです。(本部 田中祥仁)

1.17 震災の経験と教訓を忘れない

1.17ひょうごメモリアルウォークへ参加



三宮東遊園地には、「宍粟市」の名前の入ったたくさんの竹筒が



神戸市 三宮東遊園地

阪神淡路大震災から19年目となるこの日、1.17ひょうごメモリアルウォークへ宍粟市から43名が参加しました。

神戸市立中央体育館からHAT神戸までの5kmの道のりを歩き、途中、三宮東遊園地では竹筒で1.17の文字が作られており、その灯りに手をあわせ追悼しました。

今年は宍粟から多くのボランティアの協力を得て、646本の竹筒を提供しました。会場には「宍粟市」の名前が入ったたくさんの竹筒が並び、参加者は「宍粟市の名前がたくさんあり、うれしい気持ちになりました」「来年は竹筒づくりにも協力したいです」等、感想がありました。

震災の経験と教訓を風化させないためにも、社協では今後もメモリアルウォークや竹筒の提供等、阪神淡路大震災の追悼行事へ協力していきます。(本部 田中祥仁)

神戸を想い追悼

~山崎ボランティア連絡会~



宍粟防災センター玄関前で追悼

宍粟防災センター

山崎ボランティア連絡会のみなさんが1.17の追悼をしました。

昨年12月5日にみんなで心を込めて作ったロウソクに火を灯し、「ふるさと」を合唱しました。

同連絡会のこのつどいは、今年で3年目。副会長の塚田昭子さんは「1.17 この日を忘れず、これからも宍粟市から追悼を続けていきましょう」と話されます。

阪神淡路大震災の教訓を伝えていくことの大切さを再確認する一日となりました。(山崎支部 横山洋子)